

平成21年度 自己評価書

【別紙1-1】

鈴鹿市立平田野中学校				No1	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	今後の改善点	
学力保障	授業改革 授業研究	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が学習指導案を作成し、授業を公開し、研究授業に参加する 年3回の授業研究と全教職員の授業見学に取り組む シラバスを生徒に配布し、学習への取組を説明する 最低到達目標の設定をし、生徒の到達度を検証する CRTの分析をもとに方策を立てて指導にあたる 基礎的な問いや活動または前時の復習を取り入れどの子にも「わかった」「できた」という達成感をもたせる授業に取り組む チャイム着席を徹底させ、チャイムと同時に授業を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が学習指導案を作成し、授業研究に取り組めた シラバスや、家庭学習の進め方を配布した チャイム着席は全体的にはできている。教科担当がチャイム前に教室にいることで授業の準備も早くさせることができた 	<ul style="list-style-type: none"> 最低到達目標の取組により9割強の生徒に「できた」という達成感を持たせることができた 最低到達目標の設定は焦点を明確にした授業改革に役立った。職員の意識も高まった CRT分析について、意識して取り組んだ部分はあるようになったが、十分活かされたとは言えない CRT(2年)の実施は未修学の問題が多いため、2月中旬以降が望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> チャイム着席については職員の意識から生徒の意識レベルへ高めていく。チャイム着席を守らせるために、終わりの時間も守る。「チャイムではじめチャイムで終わる」
	少人数指導	<ul style="list-style-type: none"> 全教科を通して、きめ細かな指導をする 1時限で半数の生徒に発言の機会を与える 机間巡視を頻繁に行い、生徒のつまずきにいち早く対応する 	<ul style="list-style-type: none"> 全員に発言させる取り組みができた 机間指導など目が行き届き、きめ細かな指導ができた 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに目が行き届き、生徒のつまずきに早く助言指導でき、全生徒が授業へ取り組めた 非常勤講師との連携を密にする方策を考える必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> なかなか発言できない生徒も発言できるよう工夫する
	学習ボランティア活用	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍生徒支援や低学力生徒支援のための学習ボランティアの活用を模索する 	<ul style="list-style-type: none"> 募集に向けて模索中である 	<ul style="list-style-type: none"> 学習ボランティアの募集に向けて取り組んでいる。どの範囲で公募するか、ボランティアの適正などが課題である 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業中の補充学習に実習生の協力を依頼してはどうか
	補充学習	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒に定期テスト前に補充学習の時間を設定する 家庭学習を習慣化するため、学習の進め方、テスト個票の工夫、生活ノートの工夫に取り組む。 夏休みの補充学習を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストの前に2日間の補充学習を実施した。また、教科によってはテスト後の補充も行った 学習の進め方の手引きを作成した 「ひらたの一と」に取りかかった 	<ul style="list-style-type: none"> 補充学習の実施により、わからないところを教師に質問することが定着してきた 学習の進め方は指導したが、家庭学習をさせるにはさらなる指導が必要である 「ひらたの一と」の有効な活用を探究していく 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣化への取り組みをしていく 「ひらたの一と」の定着に向け努力していく
	キャリア教育 (すずか夢工房・職業体験学習)	<ul style="list-style-type: none"> 系統的、体系的な進路学習を行う(道徳・学活・総合を利用) 体験学習を通してより自分にあった職業選択ができるようになる 高校の先生による出前授業を実施する(1クラス4時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に進めることができ、内容も充実していた 職業体験学習では約40社の協力を得ることができた 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から、高校の教師による出前授業を実施したが、生徒には非常に好評で、高校の教師を身近に感じることができた。5人の高校の教師の時間の調整が難しく、学級によって体験する授業が少ない場合もあった 	<ul style="list-style-type: none"> すずか夢工房を使っただけの学習が、講師の都合でできなかったため、早めに計画できると良い 出前授業の計画時期と高校生活入門講座の申し込み時期が重なるため仕事の分担が必要
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 実践報告の機会を増やし、学校教育全体への位置づけを高める 支援システム、支援の内容や方向性を検討する 情報交換の時間を定期的に持ち、指導に役立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 部会の中で、支援システムや支援内容を検討する機会は多く持てた 支援の取組の内容を学年会で環流できなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が支援システム1レベルで支援ができた 支援システムや支援の内容については部会で検討し、来年度に向けての方針を作ることができた 本年度、通常学級生徒の中に取り出しの必要な生徒がいなかったため具体的な支援は支援学級籍の生徒のみであった。そのため、支援担任と交流学級の担任との話し合いだけで支援を進めることになり、学校全体への報告が少なかった 支援の実践報告や支援の検討の時間や機会が持てなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会や職員会議の場で定期的な情報伝達が必要 来年度に向けて通常学級の支援対象生徒の支援計画化 支援システム2の複数の支援体制づくりが必要 地域への啓発活動も必要
	外国人教育	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な部会を開催する 共生教育の推進を図る 市県からの支援担当者との情報交換を密にし個別対応内容を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> 共生教育の取組以外はほぼ取り組めた 取り出し授業も計画的に行われ、基礎学力の保障に役立った 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に部会を開き、各学年の外国籍生徒の情報交換ができた 共生教育については、人権教育部会に任せて、全く取り組めなかった 市、県の支援員との情報交換や支援の検討は密にできた(校区内の国際教室担当者との情報交換ができた) 進路指導担当との連携で校内進路ガイダンスを2回開催した 長期休業中の補充学習を定期的に行った 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体に国際教育の取組を報告する機会を増やす 各学年会で外国籍生徒の支援状況を把握し、支援の見通しを立てる

平成21年度 自己評価書

【別紙1-1】

鈴鹿市立平田野中学校				No2
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	今後の改善点
生徒指導 生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 時間を守る指導を徹底する (朝の遅刻を各学年3人以内) チャイム着席を徹底する(授業遅刻者を0人) 職員の授業時間(開始・終了)を徹底する 事故報告件数を減少させる。(昨年35件) 怠学、不登校生徒を各学年5人以内にする 挨拶、返事や正しい言葉づかいの指導をしっかりと 自ら進んであいさつできる生徒の割合を70%以上とする 委員会活動に対する満足度を80%以上とする 学校行事に対する満足度を70%以上とする 月1回交通安全の声掛け活動を行い、ヘルメットかぶろう運動への意識を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の教室への移動は早くなっているが、生徒の朝の遅刻は徹底できていない 事故報告件数は現在14件と減っている あいさつを進んでする生徒は80%以上である 学校行事に対する満足度は80%以上である 学年が上がるにつれ、不登校生が増加する実態がある 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が早く教室へ行くことで生徒も早く行動するようになってきているので引き続き時間を守る指導をしていく 全体的には落ち着いてきているが正しい言葉づかいが課題である 交通事故数は減少したが、一部ヘルメットをかぶらない生徒もいるので交通指導を続けていく 委員会活動が定期的でないので、活性化が必要である 不登校生徒への対策を考える必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> チャイム着席やあいさつ運動は生徒会や委員会と協力しながら進める。また、小中の連携も図る 引き続き職員間の連携を密にして、問題行動の未然防止、早期発見に努める
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭で人権作文を発表する 出会い学習や参加型体験学習を取り入れた人権学習を行う 人権メッセージや人権アンケートを実施する 指導資料の収集および整理を行う。 各種研修会への参加を呼びかけ、教職員の人権意識を高める 自分の思いを言うことができた生徒が80%以上 仲間の思いを受け止めることができた生徒が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭での人権作文の発表、人権学習などの生徒への取組や教職員の取組も機会が多く学びの体制はできている 生徒会がいじめ撲滅に向けた取り組みを積極的に行った アンケートの結果から、自分の思いを言うことができた生徒が84%、仲間の思いを受け止めることができた生徒が95%(2年)であった 	<ul style="list-style-type: none"> 1つ1つの人権学習は、充実している 生徒の個人の中では人権意識を高めることができた。しかし、実際の日常生活では、心ない言葉や行動もあるので、身近な学校生活での生徒同士のつながりをどう進めていくかを考えていく必要がある メッセージボードの製作やキャラクター作り、横断幕作りなど目に見えた活動ができて良かった 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期研修で、2学期の人権学習への取組を話しあう時間を確保する 生徒会での取り組みを定着させていく
開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより月1回、学年通信月3回、ホームページ毎週更新 体育祭、文化祭に参観する保護者の数を500人以上とする 学校公開日を設定し、保護者が学校に来やすい環境を作る 	<ul style="list-style-type: none"> HP毎週更新はできなかった 学年通信は月1、2回 体育祭、文化祭に参加した保護者合計で600人以上 学校公開日3回、授業参観2回を設けた 	<ul style="list-style-type: none"> HP作成の作業環境が改善され、2学期後半からHPの更新も多くなった。時間や労力がかかるので人数を増やす 地域への発信は徐々によくなりつつある 参加しやすい環境作りが課題である 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年にHP担当を置いて対応する 授業公開日や授業参観への保護者の参加数を増やす工夫をする 学校だよりを地域回覧する